

平成30年12月18日

関係各位

株式会社ヘヤシュ
代表取締役 藤井嗣也
静岡市葵区常磐町1-8-6
TEL: 054-252-2411

爆発事故に関する製品資料の件

平成30年12月16日 札幌市豊平区内 アパマンショップ平岸駅前店で爆発事故が発生致しました。

被害に遭われた方々、周辺住民の方々、関係する皆様に心よりお見舞い申し上げます。事故現場にて確認されました「ヘヤシュ消臭・除菌スプレー」の製品情報をご報告致します。

本品は厳格に品質、生産管理された、日本国内の高圧ガス充填工場に委託製造致しております。製品記載の使用方法でご使用いただければ安全にご利用いただけます。

記

- ① 取扱い説明書 及び 注意事項（製品印刷データ）
- ② 製品安全データシート（SDS）成分表記を含む

本件に関するお問合せ先
株式会社ヘヤシュ 佐々木智子
電話054-252-2411

以上

BLUE × ULTRAMARINE

お部屋の
消臭・除菌
heyash



heyash

ハヤシユ

消臭・除菌スプレー

8畳用

17.0mm

この商品は芳香消臭脱臭剤
協議会の自主基準に基づいて
作られています。



【使用上の注意】 ●直射日光のあたる場所、暖房器具(ファンヒーターなど)の付近、車内(特にフロントウインドやリヤウインド)の近辺に置かないで下さい。●火気や高温の物が無いことを十分に確認してから噴霧して下さい。●湯沸し器や内釜式浴槽の火種、ヒーター等は必ず消し、ガスの元栓も必ず閉めてから使用して下さい。●定められた使用方法、使用量を厳守して下さい。●人体に使用しないで下さい。●保護メガネ、マスク等を着用し、内容物を吸入しないようにして下さい。●白地や淡い色の繊維製品や革製品、白木や鞘、水性のワックス・ペンキ・ニス等の塗装部、アクリル製品やスチロール製のプラスチック製品等に直接スプレーしないで下さい。シミや変色の原因となります。●食器等に薬剤がかかった場合は十分に水洗してから使用して下さい。●照明器具には直接スプレーしないで下さい。●ボタンを押すと上方へ薬剤が噴霧しますので顔にからないように注意して下さい。●横向きや逆さまに使用しないで下さい。●使用前、使用後は十分に室内を換気して下さい。●本製品の使用時に喫煙、飲食は止めて下さい。●取扱後はよく手を洗って下さい。

【応急処置】 ●目に入った場合は清水で十分に洗い流して下さい。コンタクトレンズ使用時には外してから清水で洗って下さい。異常がある場合は医師の診察を受けて下さい。●皮膚に付着した場合は石鹸で十分に洗浄して下さい。●気分が悪くなった場合は風通しの良い所で安静にし、回復しない場合は医師の診察を受けて下さい。●飲み込んだ場合は無理に吐き出さず口をよくすすぎ、異常のある場合は医師の診察を受けて下さい。

【保管及び廃棄上の注意】 ●子供の手の届かない場所で保管して下さい。●水回りや湿気の多い場所では保管しないで下さい。●廃棄の際は各自自治体の指示に従って廃棄して下さい。

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。
①炎や火気の近くで使用しないこと。
②火気を使用している室内で大量に使用しないこと。③高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないこと。④火の中に入れてはいけないこと。⑤使い切って捨てること。

高圧ガス:DME

危険



極めて可燃性・引火性の高いエアゾール、強い眼刺激、遺伝子疾患のおそれ、生殖能または胎児への悪影響のおそれ、呼吸刺激を起こすおそれ、または眠気やめまいのおそれ、長期にわたるまたは反復ばく露による臓器の障害

品名: 除菌・消臭剤
用途: 室内用
成分: 植物抽出物、
抗菌剤

容量: 200ml
アルコール類: 20ml
危険等級II 火気厳禁

販売元:
株式会社ヘヤシユ
静岡市葵区常盤町1-8-6
常盤町アイワビル5階

キャップ・ボタン
フィルム
アルミ: 缶

使用方法

1 火のものは全て消し、ガスの元栓を閉め、プーラーをOFFにする。内釜式浴槽の場合、着火・ヒーター等は必ず消す。室内の換気を完全に止め、窓は全て閉める。ガス漏れ警報機を必ず切る。

2 室内の中央に倒れないように置き、ボタンをカチッと止まるまで押し込む。噴霧開始後は直ちに退室し閉めきる。噴霧後は拭取る。



ヘッドを下にカチッと止まるまで押し込む。

必ず使用方法をよく読み、安全で安定した場所での使用して下さい。

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名(化学物質等の名称)	ヘヤシュ消臭・除菌スプレー
整理番号	S-0005
会社名	株式会社ハル・インダストリ
住所	静岡県静岡市駿河区西脇296-1
緊急連絡電話番号	研究開発室 TEL : 054-284-7081 FAX : 054-284-7082
推奨用途及び使用上の制限	室内用除菌消臭剤
作成年月日	2011年12月17日

2. 危険有害性の要約

特有の危険有害性

この商品は下記の法令に該当しますので、該当する法令の内容を確認し取扱ってください
危険物第4類 第2石油類（消防法 危険物）

GHS 分類

物理化学的危険性	可燃性／引火性エアゾール	区分 1
	高圧ガス	液化ガス
人健康有害性	引火性液体	分類対象外
	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入-ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入-蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入-粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	
発がん性	区分 2	
生殖毒性	分類できない	

環境有害性	特定標的臓器／全身毒性(単回ばく露) 区分 3
	特定標的臓器／全身毒性(反復ばく露) 分類できない
	吸引性呼吸器有害性 区分 1
	水生環境有害性・急性 分類できない
	水生環境有害性・慢性 分類できない

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール

加圧ガス／熱すると爆発のおそれ

皮膚刺激

発がんのおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれ

眠気またはめまいのおそれ

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。

— 禁煙

裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

加圧容器：使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

スプレー、霧(ミスト)を吸入しないこと。

眼に入らないようにすること。

【応急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合：無理して吐かせないこと。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚(又は毛髪)に付着した場合：直ちに、すべての汚染され

た衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を石鹼と水で洗うこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
温度が 40℃以上となることを避けて保管すること。
高湿度となることを避けて保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

物質

単一製品・混合物の区別

混合物

	含有量	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
エタノール	50～70wt%	(2)-202	64-17-5
水	20～40wt%	—————	—————
DME	30～50wt%	(2)-360	115-10-6
消臭原体	0.1～2.0wt%	非公開	—
抗菌剤	0.01～0.1wt%	非公開	—

危険有害成分：

化学物質管理促進法	対象物ではない
労働安全衛生法 第57条 表示対象物	対象物ではない
労働安全衛生法 第57条の2 通知対象物	エタノール
毒物劇物取締法	対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
身体を毛布などでおおい、保温して安静に保ち、直ちに医師の手当てを受ける。

呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。

皮膚(または髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼水で洗

目に入った場合	う。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。 清浄な水で数分間注意深く洗浄する。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄する。眼の刺激が続く場合は、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。
予想される急性症状及び遅発性症状、並びに最も重要な兆候及び症状	皮膚・気道の刺激、皮膚の乾燥、発赤、錯乱、めまい、頭痛、腹痛、下痢、吐き気、嘔吐、化学性肺炎などを引き起こす場合がある。
応急措置をする者の保護	現在のところ有用な情報なし。
医師に対する特別な注意事項	現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤	<ol style="list-style-type: none"> 1. 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。 2. 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 3. 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤	棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
火災時の特有の危険有害性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高温となると、製品の破裂の可能性がある。また、その破裂に伴い、爆発や火災の拡大が起きる可能性がある。 2. 酸化炭素類、微量の不完全燃焼した炭素化合物、金属酸化物、硫黄酸化物、ホルムアルデヒド等が発生する恐れがある。
特有の消火方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周囲の設備等に散水して冷却する。火元への燃焼源を絶つ。 2. 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 3. 周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置

高温となると容器破裂の恐れがあるので、安全が確認できない場合は近寄らない。破裂の可能性がない場合、消火用器材を準備する。作業の際には消火用保護具を着用する。

環境に対する注意事項

1. 下水道・河川等に流出し二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
2. 海上の場合：展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。

回収、中和並びに

封じ込め及び浄化の方法・機材

1. 蒸発しやすいので、速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
2. 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立入りを禁止する。
3. 少量の場合：土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。
4. 大量の場合：漏洩した液は盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
5. 海上の場合：オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸取る。
6. こぼれた場合：液の拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。止むを得ない場合は薬剤を使用する。薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

二次災害の防止策

1. 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
2. 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
3. 内容成分は空気より重く滞留のおそれがあるので、換気・拡散等を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

1. 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
2. 熱、火花、炎、高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。危険物が残存している機械設備などを修理する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行うこと。
3. 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。

注意事項

1. 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。
2. 換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。
3. 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

局所排気装置・全体換気 安全取り扱い事項

- 「8. 暴露防止及び保護措置」を参照。
1. 強酸化剤と接触しないよう注意する。
 2. 炎、火花、または高温体との接触を避ける。みだりに蒸気を発散させないこと。
 3. 吸い込んだり、眼、皮膚、及び衣服に触れないように、適切な保護具を着用する。静電気対策を行い、作業服、作業靴は導電性のものを用いる。人に向かって噴霧しないこと。

保管

保管条件

1. 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
2. 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
3. 危険物の表示をして保管する。

技術的対策

熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。容器は必ず密栓すること。直射日光を避け保管する。

注意事項

強酸化剤との接触並びに同一場所での保管を避ける。

容器包装材料

容器に転倒や落下等の衝撃を加えない。衝撃により破裂することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度

1. 日本産業衛生学会 設定されていない
2. ACGIH TLV-TWA エタノール 1000ppm

設備対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 局所排気設備、全体換気装置を設ける。 2. 取扱場所近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具	
呼吸器の保護具	通常必要がないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
手の保護具	長期又は繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。
眼の保護具	必要に応じて保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	長時間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業服等を着用する。濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。
適正な衛生対策	保護具は保護具点検表により定期的に点検する。 作業中は飲食、喫煙はしない。

9. 物理的及び化学的性質

形状	液体(加圧容器内)
色	無色透明
臭い	アルコール臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
引火点	-45°C以上
爆発範囲(爆発限界)	上限:48.0%(推定値) 下限:1.9%(推定値)
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
密度	0.87g/cm ³ (20°C、加圧容器内)
溶解度	水溶性(水:20°C)
オクターノール/水分配係数	log kow -0.31(エタノール)
自然発火温度	350°C以上
分解温度	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、ガス)	可燃性
流動点	データなし
粘度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混色危険物質との接触。日光、熱、裸火、高い温度、スパーク、静電気、その他着火源を避ける。
混触危険物質	強酸化剤との接触がないよう注意する。
危険有害な分解生成物	酸化炭素類、微量の不完全燃焼した炭素化合物、金属酸化物、硫黄酸化物、ホルムアルデヒド等が発生する恐れがある。
その他	現在のところ有用な情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性

経口 全ての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、急性毒性(経口)は「分類できない」とした。

経皮 全ての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、急性毒性(経皮)は「分類できない」とした。

吸入 全ての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、急性毒性(吸入)は「分類できない」とした。

皮膚腐食性／刺激性 全ての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、皮膚腐食性／刺激性は「分類できない」とした。

眼に対する重篤な損傷性／

眼刺激性 強い目刺激(区分 2A-2B)
その他成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性は「分類できない」とした。

呼吸器感受性又は皮膚感受性 全ての成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、呼吸器感受性、皮膚感受性ともに「分類できない」とした。

生殖細胞変異原性 全ての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、生殖細胞変異原性は「分類できない」とした。

発がん性 全ての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できな

い)なので、発がん性は「分類できない」とした。

生殖毒性

すべての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、生殖毒性は「分類できない」とした。

**特定標的臓器／全身毒性
(単回暴露)**

呼吸器への刺激のおそれ(区分 3)

眠気又はめまいのおそれ(区分 3)

**特定標的臓器／全身毒性
(反復暴露)**

すべての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)は「分類できない」とした。

吸引性呼吸器有害性

すべての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、吸引性呼吸器有害性は「分類できない」とした。

12. 環境影響情報

水生環有害性(急性)

すべての成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、水生環境有害性(急性)は「分類できない」とした。

水生環境有害性(慢性)

すべての成分が「情報なし」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、水生環境有害性(慢性)は「分類できない」とした。

残留性・分解性

現在のところ有用な情報なし。

生態蓄積性

現在のところ有用な情報なし。

土壌中の移動性

現在のところ有用な情報なし。

他の有害影響

現在のところ有用な情報なし。

環境基準

現在のところ有用な情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

1. 知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

2. 投棄禁止。

汚染容器及び包装

知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制	IMOの規定に従う
航空規制	ICAO/IATAの規定に従う。
国連分類	クラス2.1
国連番号	1950
国内規制	下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
陸上	消防法の規定に従う。(第4類アルコール類)
海上	船舶安全法の規定に従う。(エアゾール類)
航空	航空法の規定に従う。(エアゾール類)
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 容器温度が40℃以上とならないように温度上昇防止を図る。

15. 適用法令

労働安全衛生法	通知対象:エタノール
化学物質排出管理促進法 (PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	危険物第4類アルコール類 危険等級II

16. その他の情報

引用文献等	日本産業衛生学会許容濃度等の勧告(OELs) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. ACGIH European chemical substances information system IRAC monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans volume 33.
-------	---

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。この製品安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の手続きを対象としたものです。本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱って下さい。ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もす

るものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。